

【テーマ】「追加の知恵」—公正な裁きについて—

今週からしばらく、箴言の4つ目の格言集である「知者の更なる言葉」を学びます。

【聖書のみ言葉】

箴言 24:23-25 を読みましょう。

【テキストの解説】

わが子よ、人を偏り見て裁くこと、つまり、悪を善と判決することは、よくないことです(24節前半)。なぜなら、人々は、そのような不公正な裁きをする人に、ののしりと呪いをもって応答するからです(24節後半)。

不公正なさばきをする人と比較して、公正な裁きをする人は人々に喜ばれ、素晴らしい祝福がその人に臨みます(25節)。だから、人を偏り見てはなりません。

・「偏り見る」という言葉には、「調査する」や「調べる」(創世記 31:32,37:32)、又は「気遣う」や「目に留める」(ルツ 2:10,19)の意味が含まれています。ある人を不公平に気遣うことは、その人を偏り見ることの種となります。

・「臨む」とは、その祝福が主から来ることを暗に意味します。

【適用】

私たちの日常生活においても、家庭や職場、教会などの人間関係の中で、公正さが求められることがあるでしょう。公正さを保つために工夫していることがあるでしょうか？努力していることがあるでしょうか？

特定の人を偏り見ることは、後々人々からの非難につながると聖書は教えています。公平でありたいと願っていてもなかなか難しい時や、公平にしていると思っても相手はそうは受け止めてくれない時もあるかもしれません。それでも、できる限り、神のみ言葉にそって公正さを追い求めるなら、人々からの喜びと主からの祝福を受けることができるでしょう。

日本社会でも、国際社会でも、公正に裁判がなされ、公正さが社会のどの単位においても保たれていることが重要であることは言うまでもありません。指導的な立場にある人たちが主を知り、主のみ言葉にそって公正さを追い求めるように祈りましょう。それは私たちが公正な社会の中で平安な生活を送るためです(1 テモテ 2:1-2)。